



外国出張報告書

平成 26 年 7 月 9 日

1. 出張国名 アルゼンチン・ブラジル
2. 出張月 平成 26 年 5 月
3. 出張目的 「植物病原糸状菌に対する生物的防除資材開発のための発酵及び製剤技術の最適化」及び Embrapa 大豆研究所との業務打合せ等：B
4. 成果の概要
 - 1) 「植物病原糸状菌に対する生物的防除資材開発のための発酵および製剤技術の最適化」
アルゼンチン農業総合技術院 (INTA) 微生物研究所 (IMYZA) およびマルコスファレス農業試験場で下記の試験を相手国研究員とともに実施し、試験方法及び研究結果について論議・指導した。
 - (1) 大豆および小麦の根腐病防除のためのトリコデルマ菌の増殖法の検討
 - (2) 微生物資材の防除効果を明らかにするための病原菌密度の検討
 - (3) 室温保存したトリコデルマ資材のコムギ苗立枯根腐病 (病原菌：*Fusarium graminearum*) の防除効果試験 (マルコスファレス農業試験場、圃場試験)
 - 2) 畑作安定供給プロジェクト
南米におけるダイズさび病菌の病原性の変異とさび病抵抗性品種の開発の研究拠点であるブラジル農牧研究公社大豆研究所 (Embrapa Soja) を表敬訪問するとともに、「Soybean production and diseases in Japan」という表題で講演した。
今までに使用してきたさび病菌菌株などの研究試料、温室や陽光定温期などの施設、実験室・実験機材について確認を行った。